

令和3年度における第4次地方公共団体実行計画の実施状況について

温室効果ガス総排出量について

(単位：t-CO₂/年)

	H16 (基準年度)	R3
エネルギー起源 CO ₂	4,811	4,298
非エネルギー起源 CO ₂	2,618	1,827
排出量合計 (総排出量)	7,429	6,125
下水処理量 (単位：千m ³ /年)	13,275	16,308
排出原単位 (排出量÷処理量)	0.560	0.376

※基準年度の排出量は、現在の排出係数に基づき再計算しているため、当時の数値とは異なる。

エネルギー起源 CO₂

ガソリン、灯油などの石油系燃料のほか、電力使用等により発生する CO₂。
組合では、水処理を行うための設備稼働に伴う電力使用が9割近くを占める。

非エネルギー起源 CO₂

下水処理や汚泥焼却に伴い発生するメタンや N₂O を CO₂ に換算したもののほか、下水処理に伴う薬剤使用により発生する CO₂ 等の合計。

計画目標

排出原単位について、基準年度と比較して令和7年度時点で 16.5%削減

※排出原単位は、下水処理量あたりで、どの程度の CO₂ が発生しているかの目安。下水道事業は処理量次第で排出量が増減してしまうため、排出量そのものではなく、原単位での目標設定としている。

主な取組

- ・節電、ウォームビズ・クールビズ、エコドライブ等の励行
- ・水処理設備、汚泥処理設備の効率的な利用、適切な薬剤添加量の維持

実施状況

令和3年度は、基準年度と比べて原単位で 32.9%の減となり、計画目標を達成できている状況となった。

主な理由として、令和3年度は汚泥焼却施設に不具合が発生したために、過年度に比べて焼却量が少なかったことが挙げられる。

処理量自体は増えているなか、エネルギー起源 CO₂ の排出量が減少していることから、基準年度以降に行った設備更新における省エネ機器の導入が一定の効果を上げたものと考えられる。